

千里山を起点とする一級河川 上の川

二十回生 浅野倉平

上の川は千里山東二丁目二十三番地・千里山東遊園の五十メートル程上手の暗渠出口を起点として、千里山東一丁目・千里山西一丁目・円山町・垂水町一丁目・豊津駅前交番裏側付近で糸田川に合流する、流路延長一・八キロメートル、流域面積二・二三平方キロメートルの淀川水系の一級河川である。

この川は、起点では阪急電鉄千里線の千里山駅から天神橋筋六丁目方向に向かって左側の吹田市道沿いに流れているが、関大前駅の住宅地踏切道付近で、百二十メートル程、暗渠となり、阪急千里線の線路の下を横断して千里山西一

丁目で顔を出し、関大前駅の中程より、阪急千里線の右側を線路沿いに豊津駅まで大阪府道吹田・箕面線に挟まれて流れている。

現在の上の川は、上流部では、河道はコンクリート及び矢板護岸の三面張りとなっており、下流部ではブロック護岸の三面張りとなっている。

しかし、私が千里第二小学校に通っていた頃の上流部の護岸は板張りで、川床はさらさらとした細かい砂であり、通常の水深は一〇センチ程で、小川と言う感じであった。だから、夏の暑い盛りの二部授業の登下校の折には、大学前から関大前駅と千里山駅の間にあたる、通称、ドバシの辺りまで、川の中を歩いて通学していた。この当時、この川の水源は佐井寺の古池とか言われており、現在の千里山高塚あたりの田圃や畑に水を供給する農業用灌漑水路であり、千里第二小学校から千里山駅に向かう道路の間あたりで大学前方面に向かう三叉路付近あたりで、この水路

は暗渠となり、先の、千里山東二丁目上の川の起点となる所で外に出ている。そのような事もあり、当時の上の川には、メダカが群れをなして泳いでおり、たまには、オタマジャクシや鱒や小鮒も流れて来たりする楽しい通学路であった。

上の川は、昭和十六年から十七年にかけて、豊津駅付近が改修され、現在の川筋となったが、それまでの川筋は垂水墓地付近で、現在より西側を流れており、川幅も狭く、又、浅い天井川であったために、昭和十五年七月の豪雨の折には、垂水町付近で堤防が数か所決壊し、垂水町一帯の四百五十戸余りの家屋が床上まで水に浸かると言う大洪水が起こり、大きな被害にあった。これを契機に大改修工事が行われ、現在の川筋になったが、豊津駅前交番の敷地内には、当時の洪水被害の大きさと改修の苦労、完成の喜びと感謝を記念した「記念碑」が建てられおり、そこには、

併せて、自然災害と、その防止に懸命となった人々の苦労が記せられている。

尚、豊津駅より江坂方面に百五十メートル程行ったところ、上の川が天井川であった事を証するブリッジの一部が残されていたが、平成二十六年一月、マンション建設の折に取り壊されてしまったが、マンションの正面には、ここに天井川が在った事を示すプレートが埋め込まれている。

この大改修工事の結果、その後、上の川は垂水町では、氾濫する事は無くなった。しかし、その反面、上の川の起点より、更に上の千里山団地の開発・田畑の宅地化等により、丘陵が削られ、山林が伐採された結果、コンクリートとアスファルトによる市街化が進み、降った雨水が地面に浸み込む事がなくなり、行き場のなくなった雨水は、上の川に集中して流れ込むようになり、平成九年頃から、集中豪雨時に、上の川の関大前駅の暗渠部分の入口に当たる千

里山東一丁目あたりで、家屋への浸水被害が続発するようになった。

この対応策として、大阪府茨木土木事務所と吹田市役所では、平成十五年、千里山駅と関大前駅の、ほぼ中間にあたる上の川添いにある「千里山東公園」の地下に「上の川調節池」を設置した。

「上の川調節池」は、縦四十メートル・横五十七メートル・深さ八メートルの巨大な池で、九、一〇〇立方メートルの貯水が可能である。この量を二十五メートルプールに換算すると約三十五杯分の水量を貯める事が出来る。

しかし、調節池が設置された後の平成十九年八月三十日の八時四十分から九時四十分までの一時間に、四十三ミリの雨量を記録した折には、数戸の家屋が浸水、又、平成二十五年八月二十五日の九時五十分から十時五十分までの一時間に、四十五ミリの雨量を記録した集中豪雨の折には十数戸の家屋が浸水被害を受けている。これらの浸水は、い

れもが調節池の水量が満杯の九、一〇〇立方メートルを超え、収納不能となった雨水が、水路が狭くなっている関大前駅近くの暗渠部分の入口で氾濫し、膝下浸水を起こしたものとされている。

尚、千里山地域に降る雨は、南千里付近に設置されている雨量観測所で計られている様だが、平成二十五年八月十五日の一時間当たりの雨量としては、上の川に最も近い千里第二小学校の雨量計では、九時四十分から十時四十分までの一時間の雨量が五〇・三ミリであったと記されており、この折の浸水被害を受けた家屋は、主としてこの辺りの店舗で、被害総額は約一、〇〇〇万円とされている。

この浸水で被害を受けた「コニシ電化」では、水の増え方が早く、一階に陳列している小さい商品は、何とか二階に上げる事ができたが、冷蔵庫だけは移動することが出来

ず、結果的には廃棄処分にしたとの事であった。

「コニシ電化」の左並びの「まるたスポーツ店」も、上の川の溢れた濁水が店舗に流入したが、陳列棚の最下段の商品は卓上に上げたので商品には損害はなかったが、次の水害備えて商品は陳列棚の最下段には置かず、開けているなどの浸水対策をしている様だ。

「コニシ電化」の右並びの七階建てマンション「セントラル千里山東」では、上の川の濁水が地下駐車場に流れ込み、数台の車が水没する被害を受け、水が引いてから、消防署のポンプ車が出動して、地下駐車場の水を排水していた。

又、「まるたスポーツ」と道を一本隔てた「ダイコク・ドラッグ」では、店外にて陳列棚で販売をしていたスナック菓子・カップ麺等がかなり流され、阪急電車の住宅地踏切道付近の冠水した道路上に、多くの商品がプカプカと浮いていた。

この浸水事故後、大阪府茨木土木事務所では、暗渠への流入口付近と他一か所に「上の川調節池水位表示装置」を取り付けた。この装置は、大雨の際に上の川調節池に雨水を貯めた時の池内の水位を段階的に表示するもので、赤色ランプが点滅すると、調節池の水位は、ほぼ満タンになっており、道路等の冠水が起こる可能性があるため、それに備える様にする事などの注意書きが添えられている。

関西大学の正門近くにある我が家の前の道路は、幅六メートル程で傾斜が付いており、道の両側には、幅が三センチの排水溝が設けられている。しかし、大雨が降ると、道路一杯に雨水が流れ、まるで川の如くなる。昔の関西大学構内には、四百メートルのトラックが二面取れる程の大グラウンドと、ゴルフ場のショートホール程の芝生の校庭もあり、大雨が降っても、これらの場所で雨水を吸収してくれていたが、現在は、それらの場所に校舎が増築され、

関西大学構内で雨水が吸収されなくなり、その雨水は、水は高さより低きに流れる原理にならって、我が家の前の道路幅一杯に流れる様になった。この雨水は、最終的には上の川に流れこんでいる。

千里山は坂の街でもあるので、豪雨の折には、我が家の前の道路と同じ現象が起きているのではないか思われる。

千里山で洪水・・・？、と思われる方が多いと思うが、吹田市の洪水ハザードマップには、上の川流域は洪水が発生する危険な場所として記されている。

上の川から洪水を無くすには、もう一つ調節池を造るか、暗渠部分の水路を拡張しない限り、又、洪水は起こるものと思う。それまでは、吹田市が配布した土嚢を積んで自衛するしかないさそうだ。

参考資料

淀川水系神崎川ブロック(糸田川・上の川)の流域概要について

写真提供 関大前の電気屋さん 株式会社コニシ 千里山店

